(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2011-50502
(P2011-50502A)
(43)公開日　平成23年3月17日(2011.3.17)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A45D 33/00	(2006.01)	A45D 33/00	650E	
		A45D 33/00	625A	

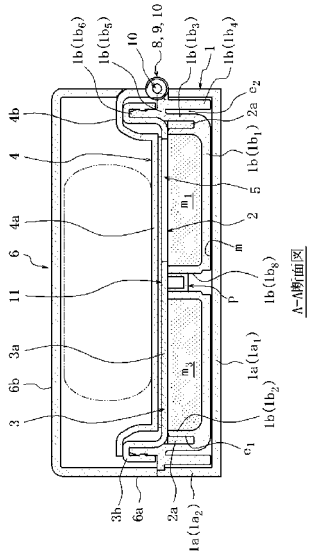
審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 7 頁）

(21)出願番号　特願2009-200818 (P2009-200818)
(22)出願日　平成21年8月31日 (2009.8.31)

(71)出願人　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100147485
弁理士　杉村　憲司
(74)代理人　100134005
弁理士　澤田　達也
(72)発明者　鈴木　一男
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内

(54)【発明の名称】化粧料容器

(57)【要約】
【課題】異なる種類の化粧料、とくに粉末状の化粧料を複数入れておくことが可能であり、該化粧料を確実に密閉保持し得る構造の簡素化された化粧料容器を提案する。
【解決手段】異なる化粧料をそれぞれ装填する少なくとも二つの区画凹所を備えたケース本体１と、このケース本体１にヒンジを介して開閉可能に支持され、該ケース本体１の外周端縁に合わさってその内側に密閉空間を形成する蓋体とを備えた化粧料容器において、ケース本体１に、可撓性を有し前記区画凹所m_1～m_4の全面を覆う網体２と、この網体２の上面に回動可能に配され、該区画凹所m_1～m_4を網体２とともに覆う回動板３を設け、回動板３の上面に、内容物の取り出しに使用する塗布部材の載置領域を形成する塗布部材受用皿４を配設し、前記回動板３に、内容物を装填する前記区画凹所m_1～m_4の少なくとも一つを網体２とともに露出させる開口部５を形成する。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
異なる化粧料をそれぞれ装填する少なくとも二つの区画凹所を備えたケース本体と、このケース本体にヒンジを介して開閉可能に支持され、該ケース本体の外周端縁に合わさってその内側に密閉空間を形成する蓋体とを備えた化粧料容器であって、
前記ケース本体に、可撓性を有し前記区画凹所の全面を覆う網体と、この網体の上面に回動可能に配され、該区画凹所を網体とともに覆う回動板を設け、
前記回動板の上面に、内容物の取り出しに使用する塗布部材の載置領域を形成する塗布部材受用皿を配設し、前記回動板に、内容物を装填する前記区画凹所の少なくとも一つを網体とともに露出させる開口部を形成したことを特徴とする化粧料容器。
【請求項２】
前記ケース本体の中央部に、前記網体の一部分を係止ピンとともに差し込んで該網体に張りをもたせる凹部を設けた、請求項１に記載の化粧料容器。
【請求項３】
前記塗布部材受用皿の下面に、回動板の上面に当接して前記開口部を閉塞させるシール部材を有する、請求項１又は２記載の化粧料容器。
【請求項４】
前記回動板は、前記区画凹所に装填された化粧料の視認を可能とする透明又は半透明体からなる、請求項１～３の何れかに記載の化粧料容器。
【請求項５】
前記ケース本体の側壁に間隔をおいて二つの第１凸部を設け、前記塗布部材受用皿の縁部に、前記二つの凸部の相互間に位置する第２凸部を設け、前記蓋体の側壁に、前記ケース本体の二つの凸部を両側から挟み込む第３凸部を設け、これら第１凸部、第２凸部及び第３凸部と、その全てを貫いて配置される枢軸にてヒンジを形成してなる、請求項１～４の何れかに記載の化粧料容器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、異なる種類の化粧料（中味や色等が異なるもの。）、とくに粉末状の化粧料を複数入れておくのに好適な化粧料容器に関するものであり、該化粧料を確実に密閉保持するとともに使い勝手の改善を図ろうとするものである。
【背景技術】
【０００２】
種類の異なる化粧料を一つの容器に複数装填したものとしては、アイシャドーやファンデーション等を入れる容器が知られている。ところで、近年、この種の化粧料にあっては、容器の落下に起因した化粧料の割れの如き不具合の解消を図ることが可能で、内容物を最後まで使いきることができる等、化粧料の取り扱いが容易なことから、該化粧料を粉末状にして商品が数多く上市されるようになってきている。
【０００３】
かかる容器は、使用時における化粧料の飛散を防止するの避けられないので、可撓性のある網体（メッシュ）にて装填された内容物を覆い、この網体をパフ等の塗布部材とともに内容物に押し付けて該塗布部材に化粧料を適量付着させて使用するようになっている（例えば、特許文献１参照）ところ、種類の異なる粉末状の化粧料を複数装填するとともに、確実に密封保持しておくことができる使い勝手のよい容器については未だ存在しておらず、それに適した容器の開発が望まれていた。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００２－２９１５２１号公報
【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
本発明の課題は、種類の異なる粉末状の化粧料を複数装填することが可能で、かつ、該化粧料を確実に密封保持できる新規な容器を提案するところにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明は、異なる化粧料をそれぞれ装填する少なくとも二つの区画凹所を備えたケース本体と、このケース本体にヒンジを介して開閉可能に支持され、該ケース本体の外周端縁に合わさってその内側に密閉空間を形成する蓋体とを備えた化粧料容器であって、
前記ケース本体に、可撓性を有し前記区画凹所の全面を覆う網体と、この網体の上面に回動可能に配され、該区画凹所を網体とともに覆う回動板を設け、
前記回動板の上面に、内容物の取り出しに使用する塗布部材の載置領域を形成する塗布部材受用皿を配設し、前記回動板に、内容物を装填する前記区画凹所の少なくとも一つを網体とともに露出させる開口部を形成したことを特徴とする化粧料容器である。
【０００７】
上記の化粧料容器においては、ケース本体の中央部に、前記網体の一部分を係止ピンとともに差し込んで該網体に張りをもたせる凹部を設けておくのが望ましい。
【０００８】
パフ受用皿の下面には、回動板の上面に当接して前記開口部を閉塞させるシール部材を配置しておくことができる。
【０００９】
また、回動板としては、区画凹所に装填された化粧料の視認を可能とする透明又は半透明体で形成されたものを適用するのが望ましい。
【００１０】
さらに、前記ケース本体の側壁に間隔をおいて二つの第１凸部を設け、前記塗布部材受用皿の縁部に、前記二つの凸部の相互間に位置する第２凸部を設け、前記蓋体の側壁に、前記ケース本体の二つの凸部を両側から挟み込む第３凸部を設け、これら第１凸部、第２凸部及び第３凸部と、その全てを貫いて配置される枢軸によってヒンジを構成するのが好ましい。
【発明の効果】
【００１１】
ケース本体に、区画凹所の全面を覆う網体を設け、この網体の上面に区画凹所を網体とともに覆う回動板を設け、さらに、回動板の上面に、パフ受用皿を配設するとともに、該回動板に、内容物を装填する区画凹所の少なくとも一つを網体とともに露出させる開口部を形成することで、シール性を損なうことなしに数種類（中味や色等が異なるもの。）化粧料の装填を可能とするとともに、目的とする化粧料のみを個別に取り出すことが可能となり、使い勝手が著しく改善される。
【００１２】
ケース本体の中央部に凹部を設けて、網体の一部分を係止ピンとともに該凹部に差し込むことで、各区画凹所に面する網体を常に張った状態に保持でき、化粧料の適量取り出しと化粧料の飛散が回避される。
【００１３】
塗布部材受用皿の下面にパッキンの如きシール部材を設けておくことにより、蓋体を閉じた収納状態で、回動板の上面に該シール部材が当接することとなり、回動板に形成した開口部を閉塞させておくことが可能となりシール性が高まる。
【００１４】
回動板を、透明又は半透明とすることにより、目的とする化粧料の取り出しが容易となる。
【００１５】
ヒンジを、ケース本体の側壁に間隔をおいて設けられた二つの第１凸部と、前記回動板

の縁部に設けられ、二つの凸部の相互間に位置する第２凸部と、蓋体の側壁に間隔をおいて設けられ、ケース本体の二つの凸部を両側から挟み込む第３凸部と、これら第１凸部、第２凸部及び第３凸部の全てを貫いて配置される枢軸で構成することで、容器を構成する構成部材を少なくできる。

【図面の簡単な説明】

【００１６】

【図１】本発明にしたがう化粧料容器の実施の形態を示した図（図２のＡ－Ａ断面）である。

【図２】図１の平面を示した図（蓋体及び塗布部材受用皿は省略）である。

【発明を実施するための形態】

【００１７】

以下、図面を参照して本発明をより具体的に説明する。

図１は、本発明にしたがう化粧料容器の実施の形態を断面について模式的に示した図（図２のＡ－Ａ断面）であり、図２は、その平面（蓋体と、塗布部材受用皿を省略した状態で表示）を示した図である。

【００１８】

図における１は、ケース本体である。このケース本体１は、外ケース１ａと、この外ケース１の内側に配置される内ケース１ｂから構成されており、外ケース１ａと、内ケース１bは、アンダーカットの如き係合手段（ねじ係合でもよい。）によって着脱自在に組み合わさっている。外ケース１ａと、内ケース１ｂは、接合あるいは接着したものであってもよい。

【００１９】

外ケース１ａは、具体的には、底板１ａ$_1$と、この底板1ａ$_1$の縁部に一体的につながりその内側に上方へ向けて開放された収納空間ｍを形成する環状側壁１ａ$_2$から形成され、内ケース１ｂは、外ケース１ａの底板１ａ$_1$の上に位置する底板１ｂ$_1$と、この底板１ｂ$_1$の縁部につながりその内側に上向きに開放された内側空間領域を形成する内側環状周壁１ｂ$_2$と、この内側環状周壁１ｂ$_2$の外側に上向きに開放された環状溝部ｅ$_1$を形成する中側環状周壁１ｂ$_3$と、この中側環状周壁１ｂ$_3$の外側で下向きに開放された環状溝部ｅ$_2$を形成する外側環状周壁１ｂ$_4$と、この外側環状周壁１ｂ$_4$及び中側環状周壁１ｂ$_3$をその上端部でつなぐ上部壁１ｂ$_5$と、この上部壁１ｂ$_5$に一体的につながり、内側環状周壁１ｂ$_2$を取り囲むように配置された環状の起立壁１ｂ$_6$と、内側環状周壁１ｂ$_2$の内側空間領域を複数に区分して区画凹所ｍ$_1$～ｍ$_4$を形成する仕切り壁１ｂ$_7$からなっており、仕切り壁１ｂ$_7$の中央部には凹部（貫通孔でもよい。）１ｂ$_8$が設けられている。

【００２０】

２は、可撓性（伸縮性）を有し、区画凹所ｍ$_1$～ｍ$_4$の全面を覆う網体である。この網体２は、円形状をなしておりその縁部に耳片２ａを有しており、この耳片２ａを、環状溝部ｅ$_1$に差し込むことによってケース本体１に固定され、この状態で、仕切り壁１ｂ$_7$の中央部に設けられた凹部１ｂ$_8$に網体２とともに係止ピンＰを差し込むことで該網体２に張りをもたせるようになっている。なお、耳片２aは、中側環状側壁１ｂ$_3$と内側環状側壁１ｂ$_2$の間の周壁と接合するか、あるいはアンダーカット等の係合手段により固定することも可能であり、係止ピンＰについては、内側環状側壁１ｂ$_2$の周壁にアンダーカット等の係合手段により嵌合させておけばよい。

【００２１】

３は、網体２の上面に配され、内ケース１ｂ（区画凹所ｍ$_1$～ｍ$_4$）を網体２とともに覆う回動板である。この回動板３は区画凹所ｍ$_1$～ｍ$_4$を全て覆うサイズになるディスク３ａと、このディスク３ａの縁部に一体的につながり起立壁１ｂ$_6$に、抜け止め、かつ、回動可能に被さる保持リング３ｂから構成されるものであって、該保持リング３ｂを手指でもって時計周り、反時計周りに適宜回動させることによってこれにつながるディスク３ａが内ケース１ｂの上部で回転することになる。回動板３のうち、少なくともディスク３ａは、区画凹所ｍ$_1$～ｍ$_4$内の化粧料が視認できるように透明又は半透明体にて形成され

るが、内容物の装填位置が把握できるものであれば、不透明体で形成することもできる。

【００２２】

４は、回動板３の上面に配設され、区画凹所m_1～m_4に装填された内容物の取り出しに使用するパフの如き塗布部材を載置するための塗布部材受用皿である。この塗布部材受用皿４は、回動板３のディスク３ａに平行に配置される底板４ａと、この底板４ａの縁部に一体的につながり保持リング３ｂの少なくとも上部域まで立ち上がっていてその内側に塗布部材の収容空間を形成する周壁４ｂから構成されている。

【００２３】

５は、回動板３のディスク３ａに設けられた開口部である。この開口部５は、区画凹所m_1～m_4と同一形状を有する単一の窓孔（図示のものは三角形状を呈するものを例として示してある。）からなっている。

【００２４】

６は、ケース本体１に開閉可能に支持され、ケース本体1の外周端縁に合わさってその内側に密閉空間を形成する蓋体である。この蓋体６は、外ケース１ａの外側環状周壁１ｂ$_4$の上端面に合わさる環状の側壁６ａと、この側壁６ａの上端に一体的につながる天井壁６ｂから構成されている。

【００２５】

また、７は、ケース本体１のうちの内ケース１ｂの側壁（外側環状周壁１ｂ$_4$）の上部に間隔をおいて一体的に設けられた第１凸部、８は、塗布部材受用皿4の周壁４ｂに一体的に設けられ、第１の凸部7の相互間に位置する第２凸部（仮想線で表示）、９は、蓋体６の側壁6ａに一体的に設けられ、内ケース１ｂの第１凸部7を両側から挟み込む第３凸部（仮想線で表示）、そして１０は、第１凸部７、第２凸部８、第３凸部９を貫いて配置される枢軸であり、これら第１凸部7、第２凸部８、第３凸部９、枢軸１０によってヒンジを構成している。さらに、１１は、塗布部材受用皿４の底板４ａの下面に接着剤あるいは融着により貼着されたパッキンの如きシール部材である。このシール部材１１は、蓋体６を閉じた状態において回動板３のディスク３ａの開口部５を閉塞させて内ケース１ｂのシール性を高める機能を有している。

【００２６】

上記の構成になる化粧料容器においては、蓋体６を閉じた状態では、シール部材１１により開口部５が閉塞されていて、内ケース１ｂの各区画凹所m_1～m_4は、回動板３によって確実にシールされている。

【００２７】

蓋体６を開放し、塗布部材受用皿４を引き起こすと、開口部５に面した区画凹所のみが現れ、パフの如き塗布部材を網体２を通して区画凹所へ向けて押し込むことで当該区画凹所内に装填された化粧料がその飛散を伴うことなしに適量取り出されることとなる。

【００２８】

別の化粧料を取り出すには、回動板３の保持リング３ｂを手指でもって時計周り、反時計周りに適宜回動させて対応する区画凹所と開口部５を合致させればよい。ここに、回動板３と、起立壁１ｂ$_6$との間には図示はしないが、何れか一方に設けられた凸部がもう一方に設けられた凹部に抜け出し可能に嵌り込んで開口部５を各区画凹所において合致させる、位置決め手段を設けておくことができる。

【００２９】

本発明にしたがう化粧料容器は、内容物が粉末状であり、かつ、複数種類の化粧料が装填されていても構造の複雑化を招くことなく確実に密閉保持することが可能であり、使い勝手が極めてよい。

【００３０】

塗布部材受用皿４及び蓋体６を開閉可能に支持するヒンジは、一箇所に集約できるため、部品点数を軽減できるとともに、効率的な組み付けが行える。

【００３１】

ケース本体１を構成する外ケース１ａと内ケース１ｂは、ねじ等による係合でもって一

体化を図ることができるが、例えば、外側環状周壁１ｂ$_4$に、外ケース１ａの環状側壁１ａ$_2$の内側面へ向かう付勢力（弾性力）を付与しておき、内ケース１ｂを外ケース１ａの収納空間ｍに収めた際に、アンダーカットの如き係合手段で着脱自在に係止してもよく、この点については限定されない。

【産業上の利用可能性】

【００３２】

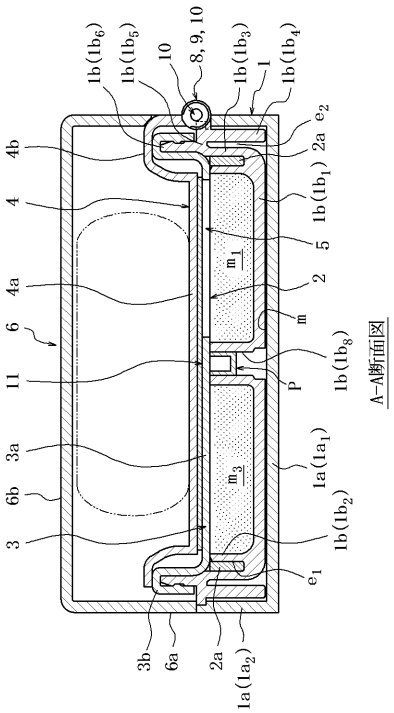
異なる種類の化粧料を装填することが可能で、該化粧料を確実に密封保持し得る構造の簡素化された化粧料容器が提供できる。

【符号の説明】

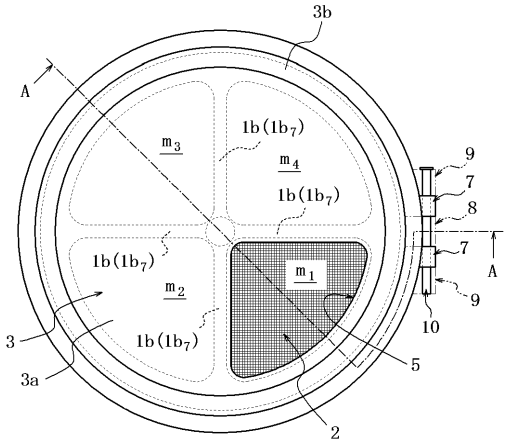
【００３３】

１　ケース本体
１ａ　外ケース
１ｂ　内ケース
２　網体
２ａ　耳片
３　回動板
３ａ　ディスク
３ｂ　保持リング
４　塗布部材受用皿
４ａ　底板
４ｂ　周壁
５　開口部
６　蓋体
６ａ　側壁
６ｂ　天井壁
７　第１凸部
８　第２凸部
９　第３凸部
１０　枢軸
１１　シール部材（パッキン）
ｍ　収納空間
Ｐ　係止ピン
ｍ$_1$～ｍ$_4$　区画凹所
ｅ$_1$　環状溝部
ｅ$_2$　環状溝部

【図１】


1b(1b6)
1b(1b5)
10
8, 9, 10
1b(1b3)
1
1b(1b4)
e2
2a
1b(1b1)
5
2
m1
m
P
1b(1b8)
1a(1a1)
m3
1b(1b2)
e1
3b
6a
2a
1a(1a2)
4b
4
4a
6
11
3a
6b
3
A-A断面図

【図２】


3b
A
m3
1b(1b7)
m4
1b(1b7)
9
7
8
7
A
1b(1b7)
m1
m2
1b(1b7)
10
9
3
3a
5
2